

「APEC女性と経済サミット及び経済活動における女性のエンパワーメントについて聞く会」資料

文部科学省における取組例について

平成23年12月

文部科学省

女性のライフプランニング支援総合推進事業

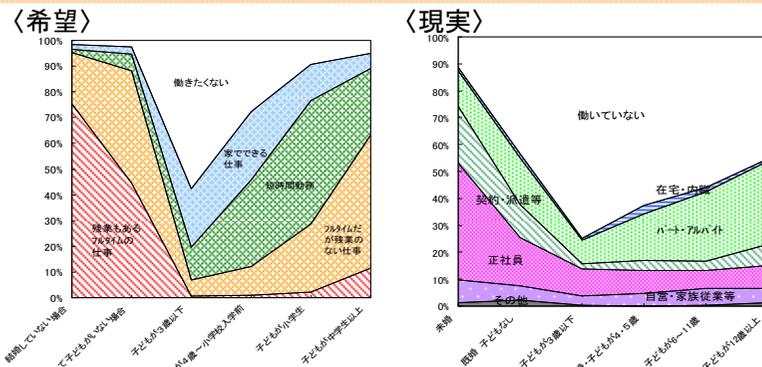
(前年度予算額 17,508千円)
23年度予算額 10,108千円

ライフプランニングとは、従来の「キャリアプランニング／キャリアデザイン」にライフイベント(結婚・妊娠・出産等)を織り交ぜたもの。

【背景】男女雇用機会均等法、ワーク・ライフ・バランスに関する憲章・行動指針等の整備が進み、働き方を含め女性の生涯を通じた選択は多様化しているが、女性の労働力率は30歳代を底とするM字カーブを描いており、結婚、妊娠、出産等のライフイベントを機に就業を中断するケースが多い。(特に出産を機に約6割の女性が退職している。)また、非正規雇用について、男性は全体の約18%であるのに対し、女性は約53%という状況。

【現状】

ライフステージに応じた働き方の希望と現実のギャップ



学校教育・社会教育の中で十分に学習の機会が提供されていない

“若者への支援の必要性”

- ・学校で受けた支援は「職種に関する情報提供」が最も多いが、受けたかった支援では、「女性の継続就業・離職・再就職等をめぐる現状についての情報提供」が最も多く、要望とのギャップがある。
- ・社会教育学級・講座開催状況は、青少年を対象とした講座が全体の約21%程度となっている。特に、「男女共同参画・女性(女性の生き方を考える講座)問題」をテーマとした講座は全体で526件あるが、青少年対象とした講座は0件。

“国の動向”

- 〈第11分野「男女共同参画を推進し多様な選択を可能にする教育・学習の充実」〉
- 2 多様な選択を可能にする教育・能力開発・学習機会の充実
「…男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育を含む生涯学習・能力開発を推進する。」

「第3次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方」(H22.7.23)より

【事業】

I. 女性のライフプランニング支援総合推進委員会

- 若者を対象としたライフプランニング支援に関する在り方及び事業成果の普及・啓発の検討
若者が情報収集手段として主に利用するインターネットを媒体として、人生の各段階において直面する課題や、女性の置かれている現状とその課題解決に役立つ制度・相談先等の情報を整理し提供する。
- 先進的事例に関する情報収集
地方公共団体や民間団体などのライフプランニングを支援するような活動について情報収集を行う。

ライフプランニング支援に関する情報提供及び各地域の取組の共有化

II. ウーマン・ライフプランニング・ワークショップ

男女共同参画センター等の関係者が集まり、ライフプランニング支援の普及・啓発を行うほか、互い取組内容について情報交換をする。

女性がライフイベントを視野に入れ、長期的な視点で人生設計(ライフプランニング)を行い、その能力を発揮しつつ主体的に働き方・生き方を選択することを可能にする。

女性のライフプランニング支援
総合推進事業成果を反映